



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社三洋堂ホールディングス

コード番号 3058 URL <http://www.sanyodohd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役最高経営責任者兼最高執行役員 (氏名) 加藤 和裕

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 大野 平雄 TEL 052-871-3434

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|------|-------|------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 25年3月期第3四半期 | 19,711 | △4.9 | 366 | △42.3 | 349 | △43.7 | 182 | △20.3 |
| 24年3月期第3四半期 | 20,720 | - | 635 | - | 620 | - | 228 | - |

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 182百万円 (△19.3%) 24年3月期第3四半期 225百万円 (-%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年3月期第3四半期 | 31.46 | 31.26 |
| 24年3月期第3四半期 | 40.33 | 40.05 |

(注) 平成23年3月期の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成24年3月期第3四半期の増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 25年3月期第3四半期 | 17,787 | 3,251 | 18.0 |
| 24年3月期 | 16,966 | 3,112 | 18.1 |

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 3,209百万円 24年3月期 3,069百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年3月期 | - | 4.00 | - | 4.50 | 8.50 |
| 25年3月期 | - | 4.00 | - | | |
| 25年3月期(予想) | | | | 4.50 | 8.50 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|------|------|-------|------|-------|-------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 26,500 | △4.1 | 530 | △16.4 | 500 | △18.5 | 160 | 25.0 | 28.60 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。
詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|------------|----------|------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 25年3月期3Q | 6,000,000株 | 24年3月期 | 6,000,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 25年3月期3Q | 198,106株 | 24年3月期 | 201,958株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 25年3月期3Q | 5,800,178株 | 24年3月期3Q | 5,673,422株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりますが、この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しております。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 8 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景とした緩やかな景気回復傾向や12月の政権交代後の経済政策への期待感による円安基調への転換、株価の回復があるものの、欧州債務危機に伴う信用不安や新興国の成長減速などの世界景気を背景として、景気を下押しするリスクが依然存在する状況であります。

当社グループを取り巻く事業環境につきましても、より鮮明になる消費者の低価格志向に加え、増加の一途を辿る図書館の貸出冊数や、相次ぐ電子書籍端末やタブレットの発売による電子書籍市場の整備や通販市場の拡大など、状況は厳しさを増してきております。

このような経営環境のもと、当社グループは前年度より引き続いて、ネット配信では得られないリアル店舗ならではの楽しさを追求し、雑貨・菓子・玩具・古本・トレーディングカード等の新規商材の取り扱いを拡大した「ブックバラエティストア」を展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、9月に当社初の太陽光発電設備を備えた店舗として榎原神宮店(奈良県)を増床オープンいたしました。既存店においては、4月に駒ヶ根店(長野県)、6月に近江八幡店(滋賀県)、7月に高富店(岐阜県)、8月に北勢店(三重県)とせき東店(岐阜県)、10月にこくふ店(岐阜県)、11月に榛原店(奈良県)、12月には売場面積を1.5倍に増床した長良店(岐阜県)にて、ブックバラエティストア化を推進する改装を実施いたしました。また、小型店において新規商材の取り扱いを拡大する試みも、4月に深井店(大阪府)、6月に徳重店(名古屋市中区)での売場改装時に実施いたしました。

9月にはさらに、物流体制の整備による業務の効率化、取扱品目の拡充及び物流機能の高度化を目的として、愛知県小牧市と同犬山市の2ヶ所で運営しておりました物流センターを統合し、愛知ロジスティクスセンター(愛知県小牧市)を開設いたしました。

以上の結果、売上高197億11百万円(前年同四半期比4.9%減)、営業利益3億66百万円(同42.3%減)、経常利益3億49百万円(同43.7%減)、四半期純利益1億82百万円(同20.3%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 個人顧客事業

個人顧客事業の売上高は、主力の書店部門とレンタル部門は厳しい状況で推移いたしました。ブックバラエティストア化の推進により文具・雑貨・食品部門と古本部門が好調に推移し、全体では195億58百万円(同4.9%減)となり、セグメント利益は4億97百万円(同31.8%減)となりました。

(書店部門)

書店部門におきましては、平成24年のミリオンセラーが阿川佐和子の「聞く力」(文春新書)だけとなるなど話題作に恵まれない厳しい状況が続きました。そうしたなかでも、ベストセラーや話題の商品を店舗入口の売場で集中的に陳列し訴求効果を高めると同時に、季節商品やフェア商品などを中心とした提案型の売場作りに重点を置いたほか、他部門の商材とまとめて陳列することで関連購買を促進するなどの取り組みを行ってまいりました。

以上の結果、書店部門の売上高は122億26百万円(同6.4%減)となりました。

(文具・雑貨・食品部門)

文具・雑貨・食品部門におきましては、飲料を10店舗、アイスクリームを13店舗、インスタント食品を9店舗にそれぞれ導入したほか、7月より、低価格帯の食玩、プラモデル及びフィギュアなどを中心とするホビーを29店舗に新規導入いたしました。さらに、雑貨の取扱店舗を9店舗増やしたほか、100円靴下に続く100円シリーズ第2弾として、ほぼ全店に100円タオルハンカチを導入いたしました。そのほか、新たにエコバッグやブランケット等の商品開発を行うなど、積極的な拡販に努めてまいりました。

以上の結果、文具・雑貨・食品部門の売上高は12億99百万円(同9.7%増)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、部門名称を従来の「文具部門」から「文具・雑貨・食品部門」に変更しております。

(セルAV部門)

セルAV部門におきましては、音楽市場の規模縮小に歯止めがかかる気配があり、CDでは嵐やMr. Childrenの新譜や、松任谷由実、山下達郎、EXILEのベストアルバムが好調でしたが、DVDでは話題作に恵まれませんでした。そうした状況のなか、CDのビッグタイトル発売に合わせた旧譜のオフプライスセールや、期間限定のウィンターバーゲンの実施や、非導入店での予約獲得などの取り組みを積極的に行ってまいりました。

以上の結果、セルAV部門の売上高は17億3百万円(同4.6%減)となりました。

(TVゲーム部門)

TVゲーム部門におきましては、非導入店での予約獲得や買取UPキャンペーン、ソフトと本体のセット販売などの施策を展開し、「New スーパーマリオブラザーズ 2」(3DS)、「とびだせ どうぶつの森」(3DS)などの有力な新作ソフトが売上を牽引したほか、ハードの「ニンテンドー3DS LL」、「Wii U」の発売などがありました。また、新品トレーディングカードは、取扱店舗を新たに27店舗増やして80店舗とし、チラシ折込、新作のBOX予約の割引など積極的に施策を展開したことにより、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、TVゲーム部門の売上高は10億18百万円(同11.7%増)となりました。

(古本部門)

古本部門におきましては、ブックバラエティストア化の推進により販売店舗数を新たに11店舗増やして39店舗としたほか、在庫状況にあわせた買取UPキャンペーンや販売セールなど、買取と販売の両面で積極的に施策を展開したことと、さらに、新本と古本を融合させた新たな売場の展開およびミニパッケージの展開を開始したことなどにより、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、古本部門の売上高は3億44百万円(同27.1%増)となりました。

(レンタル部門)

レンタル部門におきましては、競合他社との低価格競争に加え、11月には強力タイトルの一社独占レンタルが開始されるなど引き続き厳しい状況が続いております。対抗策として、全店キャンペーンを11月に実施し、既存顧客の維持と新規顧客獲得に努めました。また、ブルーレイディスクの在庫強化やDVD旧作活性化のためのフェア導入のほか、ベストランキングの順位を50位まで拡大するなどの施策を展開し、売上の確保にも努めてまいりました。

以上の結果、レンタル部門の売上高は29億65百万円(同11.1%減)となりました。

② 法人顧客事業

フランチャイジーの経営指導や商品卸売販売などによる法人顧客事業の売上高は、前年同四半期にはフランチャイズ契約の獲得とそれに伴うFC店舗の開店がありましたが、当第3四半期連結累計期間においてはそれらがなかったため4百万円(同71.9%減)となり、セグメント損失は2百万円(前年同四半期はセグメント利益2百万円)となりました。

③ サービス販売事業

不動産の賃貸収入、自動販売機収入、受取手数料等を加えたサービス販売事業の売上高は1億48百万円(前年同四半期比1.6%増)となり、セグメント利益は95百万円(同19.4%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は177億87百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億21百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加などにより流動資産が8億57百万円増加したことや、出店に伴い建物及び構築物が増加した一方で、減価償却の進行などに伴い固定資産が35百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては145億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億82百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が3億82百万円増加したこと、長期借入金も3億89百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては32億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億39百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上などにより利益剰余金が1億32百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年5月15日に公表しました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産(ただし、事業用定期借地権等が設定されている建物及び構築物を除く。)について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ5,367千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,206,740 | 1,962,571 |
| 売掛金 | 79,365 | 98,716 |
| 商品 | 5,497,061 | 5,254,431 |
| その他 | 491,360 | 816,427 |
| 流動資産合計 | 7,274,527 | 8,132,146 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 3,819,902 | 3,796,684 |
| 土地 | 2,780,591 | 2,802,011 |
| その他(純額) | 495,884 | 539,345 |
| 有形固定資産合計 | 7,096,378 | 7,138,040 |
| 無形固定資産 | 488,941 | 436,378 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 2,106,354 | 2,089,922 |
| 貸倒引当金 | — | △8,500 |
| 投資その他の資産合計 | 2,106,354 | 2,081,422 |
| 固定資産合計 | 9,691,674 | 9,655,841 |
| 資産合計 | 16,966,202 | 17,787,988 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 8,380,316 | 8,762,788 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 742,548 | 740,076 |
| 未払法人税等 | 171,652 | 59,116 |
| 賞与引当金 | 72,424 | 32,920 |
| ポイント引当金 | 193,710 | 193,300 |
| 資産除去債務 | — | 1,650 |
| その他 | 722,377 | 793,122 |
| 流動負債合計 | 10,283,028 | 10,582,974 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,683,200 | 3,072,930 |
| 退職給付引当金 | 316,416 | 291,854 |
| 資産除去債務 | 545,939 | 563,293 |
| その他 | 25,009 | 25,009 |
| 固定負債合計 | 3,570,564 | 3,953,087 |
| 負債合計 | 13,853,593 | 14,536,062 |

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,290,000 | 1,290,000 |
| 資本剰余金 | 1,016,933 | 1,016,933 |
| 利益剰余金 | 896,773 | 1,029,287 |
| 自己株式 | △174,090 | △170,773 |
| 株主資本合計 | 3,029,616 | 3,165,448 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 40,177 | 44,405 |
| その他の包括利益累計額合計 | 40,177 | 44,405 |
| 新株予約権 | 38,512 | 42,072 |
| 少数株主持分 | 4,302 | — |
| 純資産合計 | 3,112,608 | 3,251,926 |
| 負債純資産合計 | 16,966,202 | 17,787,988 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 20,720,199 | 19,711,548 |
| 売上原価 | 14,496,959 | 13,770,052 |
| 売上総利益 | 6,223,240 | 5,941,496 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,588,230 | 5,575,102 |
| 営業利益 | 635,009 | 366,393 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4,501 | 4,128 |
| 受取配当金 | 3,512 | 3,730 |
| 受取保険金 | 20,421 | 10,922 |
| その他 | 9,050 | 8,941 |
| 営業外収益合計 | 37,485 | 27,723 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 49,557 | 41,627 |
| その他 | 2,791 | 3,093 |
| 営業外費用合計 | 52,349 | 44,720 |
| 経常利益 | 620,146 | 349,395 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 249 | — |
| 補助金収入 | — | 2,466 |
| 受取補償金 | 5,000 | — |
| その他 | 879 | — |
| 特別利益合計 | 6,129 | 2,466 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 14,533 | 1,368 |
| 固定資産圧縮損 | — | 2,466 |
| 減損損失 | — | 13,192 |
| その他 | 48 | 47 |
| 特別損失合計 | 14,582 | 17,075 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 611,693 | 334,787 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 279,095 | 161,610 |
| 法人税等調整額 | 103,950 | △4,966 |
| 法人税等合計 | 383,046 | 156,643 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 228,647 | 178,143 |
| 少数株主損失(△) | △148 | △4,302 |
| 四半期純利益 | 228,796 | 182,445 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 228,647 | 178,143 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | △2,741 | 4,227 |
| その他の包括利益合計 | △2,741 | 4,227 |
| 四半期包括利益 | 225,906 | 182,371 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 226,055 | 186,673 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | △148 | △4,302 |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。